武蔵大学
髙橋 徳行学長

1980年慶應義塾大学経済学部卒業、米国バブソン大学経営大学院修了。国民生活金融公庫（現：日本政策金融公庫）総合研究所の主席研究員を経て、2003年武蔵大学着任。専門はアントレプレナーシップ。22年4月学長に就任。

早稲田大学
田中 愛治総長

1975年早稲田大学政治経済学部卒業、85年米オハイオ州立大学大学院政治学研究科博士課程修了。政治学博士（Ph.D.）。10年以上を米国で過ごす。世界政治学会（IPSA）会長などを歴任。早大政治経済学術院教授などを経て2018年より現職。

慶應義塾大学
伊藤 公平塾長

1989年慶應義塾大学理工学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校で材料工学の修士、博士学位を取得。慶應義塾大学助教授などを経て2007年から教授。21年より慶應義塾長。専門は固体物理、量子コンピューターなど。日本学術会議会員。

データを読み解き、世界を舞台に

1922（大正11）年創立の日本初の私立7年制旧制高等学校をルーツとする武蔵大学は、開校以来一貫して「リベラルアーツ&サイエンス」の理念に基づいた教育を提供してきた。そして今、「国際化教育」や「データサイエンス教育」が大きなテーマとなる中、私立大学の目指すべき方向とは何か。髙橋徳行・武蔵大学学長が田中愛治・早稲田大学総長、伊藤公平・慶應義塾長を招き、私大の課題と展望を語り合った。経済学、政治学、物理学と3人の専門分野は異なるが、それぞれの留学体験などを交えながら活発に意見交換した。

日本で学び英大学の学位取得

髙橋　日本の私大が目指すべき方向として、まず挙げられるのはグローバル化でしょう。武蔵は2015年から、日本で学びながら英ロンドン大学の学位が取れるパラレル・ディグリー・プログラム（PDP）を開始しました。22年には国際教養学部を新設し、PDPに挑戦できる専攻を同学部の経済経営学専攻に絞り込みました。直近のロンドン大の学位取得者は過去最多の14人となりました。同学部の学生が卒業する26年にはさらに増えるでしょう。

PDPでは専門課程の12の科目を最短3年間学び、各試験に合格すればロンドン大の学位が得られます。これらの科目は武蔵の教員が英語で講義し、武蔵の単位としても認められます。日本で学べるため学生の費用負担が少なくてすみます。もちろん現地に留学できる制度もあります。

田中　早稲田も国際化教育を00年くらいから加速し、04年に国際教養学部を設けました。同学部は全ての講義科目を英語で教え、全ての学生は原則1年間の海外留学が必修です。国際化教育は全学に拡げており、1学年約8900人の学生の中現在約4600人が海外留学をしており、創立150周年の32年をめどに「学部生全員が在学中に最低1度は留学」を目指しています。

伊藤　慶應もクォーター制（4学期制）を12年度から理工学部で導入するなど、学生が留学しやすい環境を整えてきました。この制度によって学生は春学期後半から海外に行き、米国の大学のサマーセッションに参加しやすくなりました。慶應と海外協定校の両方で学び、修了時に2つの学位が取得できるダブルディグリープログラム（DDP）もおおよそ30用意しています。さらに、英語による学位課程も21開設されています。

また、過去3年間私が注力してきたのは、海外のオピニオンリーダーと学生が直接対話できる場を設けることです。例えば昨年2月には、北大西洋条約機構（NATO）のストルテンベルグ事務総長と、国連でのSDGs（持続可能な開発目標）全会一致採択に尽力したチャバ・コロシ第77回国連総会議長が相次いで来訪されました。学生たちが次々と挙手して英語で質問する光景を見て、慶應の学生もなかなかやるなと感心しました。

髙橋　グローバル教育の意義をあえて1つ挙げていただくとしたら何でしょうか？

伊藤　私は1989年から5年ほどカリフォルニア大バークレー校で物理学を学びましたが、大学にはパレスチナ系、ユダヤ系、またアフガニスタンから逃げてきた方など様々なバックグラウンドを持った学生がいました。そういう学生と直接交流できた経験は、私の視野を確実に広げました。若い時に視野を広げる体験を与えることがグローバル教育の意義だと思います。

田中　私も統計を利用した政治学を学ぶ目的でオハイオ州立大学に留学しましたが、そこで自分たちとは違う思考パターン、違う価値観を持った人々と触れ合いました。私はかつて入学式で、「ウクライナからの留学生がどれほど心細い思いをしているか、同時にロシアからの留学生も自分たちがどう見られているかという不安を感じていないか、そういう異なる立場の人に思いを寄せることが大切だ」と話しました。視野を広げ相手の立場を尊重したうえで議論することが国際化の第一歩です。

AIの回答を吟味できる力を

髙橋　データサイエンス教育も重要性が増しています。どのように拡充を図っていますか？

田中　早稲田がデータ教育を加速したのは2013年ごろからです。まず、政経学部、商学部をはじめ全学部の統計学教育を洗い出し、19年から統計学入門をデータ科学入門に改編し、人工知能（AI）によるビッグデータの解析を教えています。全学の学生の履修が可能で、23年度の履修者は1万6000人です。5年以内にはほぼすべての卒業生がデータ科学の履修者になると思います。

伊藤　日英両言語で数字のエビデンスに裏付けられた話をする能力は、これから必須になります。それに加えデータサイエンス、特に数学が重要になります。技術動向によって求められる数学は変化するかもしれませんが、今データサイエンスを学ぶことで、数学を学び続ける力が付くと思います。大学、大学院の役割は生涯学び続けられる基礎力を付けることです。

髙橋　武蔵もこの分野の教育を拡充してきました。17年に社会学部にグローバル・データサイエンスコースを設置。これは新時代の世界共通言語である「データ」と「英語」の双方を身に付けさせるコースです。27年度に向けたカリキュラム再編でも、データサイエンスの充実を目指します。まず、全学部の学生が受講可能なデータサイエンス関連の科目を強化します。そのうえで各学部の特徴を生かした施策を導入します。例えば、国際教養学部ではロンドン大のデータサイエンス学位が取れる専攻の創設を年内に申請します。経済学部ではデータサイエンス関連の科目を必修にします。

田中　最近は企業の人事担当者などからも、「学生時代からデータに基づいた議論ができる訓練をしてくれ」という要望を受けます。入社後に始めたのでは遅すぎるというのです。

伊藤　文系学部で数学を重視すると学生が顔をしかめる様子が想像できますが、卒業後に「あの時は大変だったけれど、やっていて本当によかった」という環境が提供できるか。大学にはそうした覚悟が問われています。

髙橋　文系学部の学生でも企業に入ればデータに関与せざるを得なくなります。その時に、触れた経験もなく食わず嫌いになっているのが一番困ります。「そのような学生は武蔵の卒業生には一人もいませんよ」という形にもっていきたい。

伊藤　これからの大学生は就職するとすぐにAIを利用することになると思います。AIは便利で仕事の効率を上げてくれます。しかし、AIに情報を入力して出てきた答えをそのままうのみにするのは危険です。AIの回答を「少しおかしくないか」と吟味する力が求められます。直観的に違和感があれば、違和感を数字で検証する必要があります。そこにデータサイエンスや数学を学ぶ意義があります。

ゼミは思考法を身に付ける場

髙橋　武蔵のもう一つの特徴としてゼミの重視があります。現状でも1年から4年まで原則ゼミが必修です。また、データの解析・分析を学ぶ際にもゼミ形式を活用する方針で、27年度以降の新カリキュラムでは経済学部の全学科にデータサイエンスを中心とするゼミを設けます。

田中　ゼミは思考法を学ぶ場でもあると思います。金融機関などに勤める私の教え子たちから卒業後、数年して「先生からエビデンスベースの仮説検証の思考法を学んだことが仕事にとても役立っています」と感謝され、とてもうれしく感じました。

髙橋　私は長らくアントレプレナーシップの国際比較研究をしてきましたが、日本は起業にまったく関心のない人の割合が非常に高いのです。起業に無関心な人をさらに調べると、世の中の変化への関心が極めて低いという特徴があります。限界を乗り越える力、挑戦する力が弱っていると感じます。大学教育でこれを何とかして変えたい。

田中　中学高校も含め、日本の教育は答えのある問題の答えを早く見つけることに力を注ぎすぎていると感じます。答えが見つかっていない問題を自分の頭で、エビデンスに基づいて考えぬく訓練をすべきだと痛感します。ゼミはその訓練の場にもなるでしょう。

伊藤　若い時は青臭い理想を追求してほしいと思います。無駄になるなどと考えず、世の中をよくするために様々なことに関心を持ち、貪欲に学び知識を吸収してほしいと思います。月並みな言葉かもしれませんが、そうやって人間性を高めてほしいです。

広告
企画・制作＝日本経済新聞社
Nブランドスタジオ
MUSASHI UNIVERSITY 武蔵大学
〒176-8534　東京都練馬区豊玉上 1-26-1
経済学部　人文学部　社会学部　国際教養学部